



特定非営利
活動法人

中山間地域フォーラム

設立20年間の軌跡

	頁
1. 中山間地域フォーラムとは －2006年7月1日の設立趣旨書－	1～2
2. 20年間の主な活動実績 －8回の政策提言－	3～7
3. 夏のシンポジウム全19回のテーマと概要	8～12
4. 会報に掲載された論文（第1号～12号） －会報表紙全12枚の一覧－	13～15
5. 「中山間地域ハンドブック」の出版	16
6. 中山間地域フォーラムへの入会のお誘い	17
7. 中山間地域フォーラムの役員体制	18

2026年6月27日（土）

（設立20周年記念シンポジウム開催日）

1 中山間地域フォーラムとは

(1) ねらい

私たち日本人のふるさとであり原風景でもある「中山間地域」には、多様な自然生態系や美しい風景、伝統的な文化が残されています。農山村は食料生産だけでなく、自然環境や国土保全など多面的で公益的な役割を果たしているのです。

いま、その多くの地域で過疎化や高齢化が進行し、集落機能の低下に直面している集落も少なくありません。

「特定非営利活動法人 中山間地域フォーラム」は、さまざまな分野の専門家や経験豊かな実務家で構成する産官学民のゆるやかなネットワークです。シンポジウム・研究会の開催、政策提言、地域支援や人材育成、それに情報発信やネットワークの形成を活動の柱とし、中山間地域の再生をめざしています。

(2) 設立の経緯

本フォーラムの創設メンバーは、2000～05年に初めて実施された「中山間地域等直接支払制度」の第Ⅱ期対策を検討する「中山間地域等総合対策検討会」の委員が中心でした。同検討会の最終回（2005年）の場において、厳しい状況にある中山間地域の再生に向けた活動が今後とも必要であるとの問題意識が共有され、その後1年間、有志による研究会を経て、2006年7月1日の設立総会に至りました。

東京永田町の砂防会館で開催された設立総会は、194名もの参加を得て熱気にあふれましたが、参加者の範囲は、本フォーラムがめざす産学官民のネットワークに対応するように幅広い立場からでした（企業団体43人、大学研究者71人、国14人・都道府県28人・市町村17人、マスコミ16人等）。

右頁に同日の「中山間地域フォーラム 設立趣旨書」を掲げます。

(設立総会の模様)



中山間地域フォーラム 設立趣旨書

わたしたち日本人のふるさとであり原風景でもある農山漁村地域、なかでも平野の外縁部から山間地に至るいわゆる「中山間地域」には、多様な自然や生態系、美しい風景や伝統文化がまだ豊富に残されており、食料や林産物の生産だけでなく、自然環境や国土の保全、水資源の涵養、グリーンツーリズムや情操教育の場の提供など都市の人々にとっても多面的で重要な役割を果たしています。特に最近、ゆとり・やすらぎ、安全安心が求められ、美しい農山村景観などの地域資源の保全活動、スローライフ運動、バイオマスエネルギー活用への関心なども広がる中で、国土面積の7割を占めるこの地域に対する国民の関心も高まってきています。

しかし、中山間地域は、総じて高齢化率が高く、過疎化が進行しており、コミュニティ機能の低下した地域では、耕作放棄地の増加、鳥獣害の発生、伝統的祭事の衰退、景観の荒廃などの深刻な事態が生じています。国土交通省のアンケート調査（2004年）によれば、全国の約2割の市町村で今後「集落消滅の可能性がある」とされていますが、そのほとんどもこの地域であろうと思われます。特に、今後予想されるわが国の人口減少、公共事業の減少、グローバル化による市場主義の一層の徹底などは、中山間地域に深刻な影響を与えることが懸念され、下流域の都市生活にその影響が及ぶおそれもあります。

平成12年度から実施されている中山間地域等直接支払制度は、農業生産条件の不利を直接補正し農業生産の継続等に当面の効果を発揮していますが、さらに高齢化の進行する将来については不安を抱く意見も多く聞かれるようになっていきます。また、最近の「都市再生」や市町村・農協の広域合併により、中山間地域の条件の不利な集落にきめ細かい配慮や支援が行き届きにくくなるのではないかと、との懸念も広がっています。

もとより中山間地域の各地では、住民主体のさまざまな努力が行われており、行政や農林業団体のほか、研究者やNPOなどの支援活動も広がってきていますが、このように中山間地域をとりまく状況が一層厳しくなってきた総合的な取り組みが急務であることに鑑みれば、今後は、様々な分野の専門知識や豊かな実務経験を有する産学官等の有志がネットワークを作って連携し協力して、新たな時代における中山間地域のあり方や振興策について英知を結集し、政策提言などを行うとともに、地域における自主的な取り組みに対して総力を挙げて協力し支援していく必要があると考えます。

私たちは、多くの日本人のふるさと・原風景であり多面的で重要な役割を担い可能性に満ちたかけがえのない中山間地域の再生に向けて、多様な領域の専門家や実務家が連携し英知と熱意を結集するとともに、意欲的な現地の活動に呼応して支援の輪を広げていくことを決意して、「中山間地域フォーラム」を設立します。

2006年7月1日

2. 20年間の主な活動実績

(2006年)

7月1日	設立総会「中山間地域再生に向けていま何をなすべきか」を開催
10月	支援モデル地域候補地への現地調査

(2007年)

7月	設立1周年記念シンポ「中山間地域再生の最前線」を開催
7月	国土形成計画への提言「中山間地域の再生に向けて」
8月	「ふるさと納税」に関する緊急アピール「志ある資金の地方への移転システムの構築を」
11月	緊急研究会「限界集落等の支援施策のあり方を探る」

(2008年)

5月	現地フォーラムin石川「里づくりは人づくりから」を開催
7月	設立2周年記念シンポ「過疎地域の現在・過去・未来」を開催
7月	当フォーラムのロゴマークを3～5月に公募し、応募263点から右のロゴに決定（賞金5万円）



(2009年)

2月	集落支援員全国交流集会「若者が集落の元気をつくる」を開催
7月	設立3周年記念シンポ「どうする中山間地域等直接支払制度」を開催
10月	現地フォーラムin熊本「多面的機能から中山間地域を考える」を開催
11月	緊急シンポ「新政権に問う！どうする農山村地域」を開催

(2010年)

2月	群馬県南牧村に「明日の南牧を考える会」を設立
7月	設立4周年記念シンポ「地域再生に企業は何ができるか」を開催
11月	緊急声明「中山間地域等直接支払制度の見直しを批判する」を公表
11月	現地フォーラムin京都「地域担当職員制度を考える」を開催

(2011年)

3月	第1回中山間地域研究会の開始
7月	設立5周年記念シンポ「早期帰村実現の課題－福島県飯舘村」を開催
11月	現地フォーラムin新潟「長期的な震災復興対策」を開催

(2012年)

3月	現地フォーラムin南牧「高齢化日本一・南牧村の明日を考える」を開催
7月	設立6周年記念シンポ「中山間地域再生の新潮流」を開催
9月	林業をテーマとした研究会を開催
11月	現地フォーラムin盛岡「『拡大コミュニティ』による震災復興」を開催
12月11日	任意団体から「特定非営利活動法人 中山間地域フォーラム」に移行（会員より年会費（1号会員1万円、2号会員2千円等）の徴収を開始）

(2013年)

7月	設立7周年記念シンポ「中山間地域再生の課題」を開催
12月	現地フォーラムin広島「TPP時代を生き抜く中山間地域」を開催
12月	当フォーラムの「会報第1号（中山間地域再生のために）」を発行

(2014年)

3月	中山間地域研究会「里山資本主義を生きる若者たち」を開催
7月	設立8周年記念シンポ「はじまった田園回帰－見えてきた農山村再生－」を開催
12月	現地フォーラムin高知「集落活動センターの機能と課題」を開催

(2015年)

4月	会報第2号（はじまった田園回帰）を発行
5月	第1回中山間地域フォトコンテスト作品の募集開始（～8月）
8月	地方創生政策に関する緊急提言「地域の内発的なプロセスの実現を」を公表
10月	設立9周年記念シンポ「どう創る、中山間地域の「しごと」」を開催
11月	緊急提言に関し国交省、農水省、内閣官房との意見交換会を実施

(2016年)

5月	第2回中山間地域フォトコンテスト作品の募集開始（～8月）
7月	設立10周年記念シンポ「進化する地域運営組織－地方創生の次なる焦点」を開催

(2017年)

4月	会報第3号（地域運営組織が再生の主役）を発行
7月	設立11周年記念シンポ「農山村再生と若者力－農業の新たな位置づけ－」を開催
12月	研究会「都市と農山村をつなぐ地域サポート人材の役割と課題」を開催

(2018年)

1月	研究会「地域資源を生かした地域教育の展開可能性」を開催
2月	研究会「農業ICT×農村振興：現状と可能性」を開催
4月	会報第4号（農山村再生と「若者力」）を発行
7月	設立12周年記念シンポ「農山村の教育力－ひとと地域はどう変わるのか？」を開催
9月	研究会「グローバル人材が育つ 協力隊×協力隊×協力隊」を開催
12月	研究会「中山間地域等直接支払制度の変遷と課題」を開催

(2019年)

3月	研究会「森林経営管理制度・森林環境譲与税の問題点と活用方法」を開催
4月	会報第5号（中山間地域等直接支払制度）を発行
6月	設立13周年記念シンポ「これから農村政策を考える－基本法20年を契機として」を開催
10月	研究会「これからの農村政策を考える」を開催
11月	食料・農業・農村基本計画に関する緊急提言「総合的な農村政策の再構築を！」を公表

(2020年)

4月	会報第6号（これからの農村政策を考える）を発行
7月	コロナウイルス感染拡大で設立14周年記念シンポジウムの開催を中止
11月	佐藤特別顧問の姉上（故横溝安紀様）より100万円の遺贈を受ける（その後、2022年に「中山間地域ハンドブック」出版の財源として活用）

(2021年)

4月	会報第7号（after/withコロナと農山村）を発行
5月	2021年度第1回研究会「多様な「半農半X」の展開と可能性」を開催
7月	設立15周年記念シンポ「新たな農村政策を問う」を、コロナのためWEB開催

(2022年)

3月	2021年度第2回研究会「森林サービス産業～展望と課題～」開催
3月	当フォーラム企画編集「中山間地域ハンドブック」を農山漁村文化協会から出版
4月	会報第8号（新たな農村政策をつくる）を発行
7月	設立16周年記念シンポ「新たな中山間地域を考えるー地域からの提案」を開催
9月	「農業集落調査に関する意見書」を公表（9月15日）
11月	緊急研究会「農業センサス・集落調査の利用と分析」を開催

(2023年)

2月	「農業集落調査に関する緊急提言」を公表（2月3日）
4月	会報第9号（農業集落調査問題の本質）を発行
7月	設立17周年記念シンポ「ポストコロナ期の集落の未来」を開催
12月	研究会「食料・農業・農村政策の行方と現場の動き」（12月14日）を開催

(2024年)

4月	研究会「食料・農業・農村基本法改正と農村政策」を開催
4月	会報第10号（ポストコロナ期の集落の未来）を発行
7月	設立18周年記念シンポ「人口減少下の農村ビジョンを考える」を開催
9月	「中山間地域等直接支払制度の集落機能強化加算の廃止に関する意見書」を公表

(2025年)

3月	オンライン研究会「中山間直払い問題の本質とは何かー原点と展望ー」を開催
4月	会報第11号（農村政策と農村ビジョン）を発行
6月	設立19周年記念シンポ「多様な関わりによる新しい農村づくり」を開催

(2026年)

4月	会報第12号（2025年農林業センサスを読む）を発行
6月	設立20周年記念シンポ「中山間地域のこれまで・これから」を開催

8回の政策提言

当フォーラムでは、2006年の創設以来、国土交通省の「国土形成計画」、総務省の「ふるさと納税制度」、内閣府の「地方創生政策」、農林水産省の「中山間地域等直接支払制度」、「食料・農業・農村基本計画」、「農業集落調査」など中山間地域に関わる課題について下記の8回の政策提言を取りまとめ、関係官庁に提出するとともに広く世論に訴えてきました。

なお、政策提言の全文は、当フォーラムのホームページから「プロフィール」→「政策提言・メッセージなど」の手順で閲覧可能です。

政策提言 1

タイトル	国土形成計画への提言				
公表時期	2007年7月	対象省庁	国土交通省	分量	A4判1枚
主な内容	国土形成計画の作成に当たっては、条件不利地域と地域再生という2つの視点から中山間地域の位置づけを明確化し、盛り込むことが必要。				

政策提言 2

タイトル	志ある資金の地方への移転システムの構築を －「ふるさと納税」議論に関する緊急アピール－				
公表時期	2007年8月24日	対象省庁	総務省	分量	A4判2枚
主な内容	「ふるさと再生への強いメッセージ」を期待するが、同時に、寄付を受ける自治体は「ふるさと再生ビジョン」を明確化するとともに、納税者に対して資金の活用状況等の情報還元が必要。				

政策提言 3

タイトル	緊急声明 中山間地域等直接支払制度の見直しを批判する				
公表時期	2010年11月12日	対象省庁	農林水産省	分量	A4判3枚
主な内容	中山間地域等直接支払制度の第3期対策の策定に当たり、従前交付金の1/2以上が集落活動向けだったのを、原則個人に支払うとの新たな方針は、農村現場に大変な混乱と困惑をもたらすので、直ちに廃棄し本制度の原点に立ち返るべき。				

政策提言 4

タイトル	地域の内発的なプロセスの重視を －地方創生政策に関する緊急提言－				
公表時期	2015年8月6日	対象省庁	内閣府	分量	A4判4枚
主な内容	地方創生政策の推進に当たっては、①地域住民主体のボトムアップで地方版総合戦略等を策定すること、②地方創生に逆行する公立小中学校の統廃合を見直すこと、③「小さな拠点」に関し、居住の集約化という誤解を払拭すること。				

政策提言 5

タイトル	総合的な農村政策の再構築を！ －食料・農業・農村基本計画の改定に関する緊急提言－				
公表時期	2019年11月19日	対象省庁	農林水産省	分量	A 4 判 8 枚
主な内容	本来農業政策と農村政策は「車の両輪」であるが、実態は「補助輪」化や「脱輪」化が危惧されており、基本法が改定される今こそ、「総合的な農村政策のあり方」を国民全体の視野で議論し、中山間地域の農村ビジョンの明示、地域の内発的発展を高める政策の推進、日本型直接支払制度の改善等を行うべき。				

政策提言 6

タイトル	農業集落調査に関する意見書				
公表時期	2022年9月15日	対象省庁	農林水産省	分量	A 4 判 1 枚
主な内容	2025年農林業センサス研究会で「農業集落調査」を廃止する方針が示されたが、農村行政の基盤である同調査廃止に伴う影響は極めて深刻であり、調査方法の改善等により調査が継続されるよう提言する。				

政策提言 7

タイトル	農業集落調査に関する緊急提言				
公表時期	2023年2月3日	対象省庁	農林水産省	分量	A 4 判 2 枚
主な内容	農林水産省は、「集落調査」の廃止提案を撤回し代替案を示したが、複数の研究会委員から強く批判されており、従来方式が実施できない理由、集落調査の農村政策における位置づけ等を明確にすべき。				

政策提言 8

タイトル	中山間地域等直接支払制度の集落機能強化加算の廃止に関する意見書				
公表時期	2024年9月24日	対象省庁	農林水産省	分量	A 4 判 2 枚
主な内容	中山間地域等直接支払制度の第 5 期対策で新設されたばかりの集落機能強化加算の廃止は、農村現場に多大の混乱をもたらすものであり、廃止方針を撤回し、実質的に継続するよう強く提言する。				

3. 夏のシンポジウム全19回のテーマ

回数	開催年月日	テーマ及びサブテーマ
1回	07年 7月 7日(土)	中山間地域再生の最前線 ―農業とコミュニティを考える―
2回	08年 7月 5日(土)	過疎地域の現在・過去・未来 ―ポスト過疎法を見据えて―
3回	09年 7月11日(土)	どうする中山間地域等直接支払制度 ―現場の声を制度設計へ―
4回	10年 7月 4日(日)	地域再生に企業は何ができるのか
5回	11年 7月10日(日)	『早期帰村』実現の課題 ―福島県飯舘村―
6回	12年 7月 1日(日)	中山間地域再生の新潮流
7回	13年 7月 6日(土)	中山間地域再生の課題 ―中山間地域フォーラムは何ができるのか―
8回	14年 7月13日(日)	はじまった田園回帰 ―見えてきた農山村再生―
9回	15年10月 4日(日)	どう創る、中山間地域の「しごと」 ―地方創生の実践―
10回	16年 7月23日(土)	進化する地域運営組織 ―『地方創生』の次なる焦点―
11回	17年 7月 8日(土)	農山村再生と”若者力” ―農業の新たな位置づけ―
12回	18年 7月15日(日)	農山村の”教育力” ―ひとと地域はどう変わるのか―
13回	19年 6月23日(日)	これからの農村政策を考える ―基本法20年を契機として―
14回	21年 7月10日(日)	新たな農村政策を問う ―農村発イノベーションは広がるか―
15回	22年 7月23日(土)	新しい中山間地域を考える ―地域からの提案―
16回	23年 7月8日(土)	ポストコロナ期の集落の未来 ―ローカルコモンズの役割は何か―
17回	24年 7月 6日(土)	人口減少下の農村ビジョンを考える ―市町村消滅論を超えて―
18回	25年 6月29日(土)	多様な関わりによる新しい農村づくり ―実践から探る都市農村共創社会―
19回	26年 6月27日(土)	中山間地域のこれまで・これから

※会場：東京大学農学部弥生講堂（15、18、19回は、東京永田町の全国町村会館）。

※2020年は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催せず。

シンポジウム全19回の概要

第1回 (2007年7月7日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	中山間地域再生の最前線ー農業とコミュニティを考えるー
基調報告	佐藤 了氏 (秋田県立大学) 「コミュニティの再生と地域農業の振興」
地域報告	①佐藤 了氏 (秋田県立大学) 「秋田県」、②田村尚志氏「山口県」
P D	小田切徳美 (フォーラム:司会進行)、佐藤了氏、西藤了氏、田村尚志氏

※PDは、パネルディスカッションの略。

第2回 (2008年7月5日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	過疎地の現在・過去・未来ーポスト過疎法を見据えてー
講演	①小川全夫氏 (山口県立大学) 「中山間地域における未来社会概念」 ②二井理江氏 (中国新聞記者) 「いま、中山間地域では」 ③甲斐良治 (フォーラム) 「過疎山村の豊かさの昔と今」
コメンテーター	①四方八洲男氏 (全国水源の里連絡協議会会長・京都府綾部市長) ②佐藤啓太郎氏 (総務省過疎対策室長)
P D	工藤清光氏 (農村工学研究所:司会進行)、講演者3氏、コメンテーター2氏

第3回 (2009年7月11日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	どうする中山間地域等直接支払制度ー現場の声を制度設計にー
研究報告	橋口卓也 (フォーラム) 「中山間地域等直接支払制度の成果と課題」
集落協定事例報告	①安田修氏 (新潟県糸魚川市根知地区) ②水津良則氏 (島根県津和野町堤田集落)
提言	①窪田稔博氏 (新潟県農林水産部) 「新潟県直接支払制度あり方研究会報告の概要」 ②橋口卓也 (フォーラム) 「現場からの3分提言」
コメンテーター	仲家修一氏 (農林水産省中山間地域振興課長)

第4回 (2010年7月4日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	地域再生に企業は何が出来るのか
問題提起	村田泰夫 (フォーラム) 「企業のCSRと農山村」
事例報告	①森口博史氏 (アセトラゼネカ広報部長) 「高齢化する村を応援するプロジェクト」 ②佐藤一樹氏 (静岡県農地局) 「一社一村しずおか運動」
提言	①窪田稔博氏 (新潟県農林水産部) 「新潟県直接支払制度あり方研究会報告の概要」 ②橋口卓也 (フォーラム) 「現場からの3分提言」
パネルディスカッション	村田泰夫 (司会進行)、荒蒔康一郎 (キリン掘ホールディングス相談役)、上杉登氏 (三菱商事アグリサービス社長)、藤本影三氏 (じょうえつ東京農大社長)

第5回 (2011年7月10日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	『早期帰村』実現の課題ー福島県飯館村ー
現地報告	①菅野典雄氏 (福島県飯館村長) 「飯館村は訴える」 ②溝口 勝氏 (東京大学教授) 「飯館村の『土』は今」
パネルディスカッション	守友裕一 (フォーラム:司会進行)、菅野典雄氏、溝口 勝氏、佐野ハツノ氏 (飯館村までい民宿どうげ経営)

第6回（2012年7月1日：東京大学農学部弥生講堂）

テーマ	中山間地域再生の新潮流
講演	①桐山三智子氏（片品生活塾）「農山村の新しいライフスタイル」 ②甲斐良治（フォーラム）「農山村の新しい経済－新直売所・新集落営農・新林業」 ③作野広和氏（島根大学）「農山村の新しいコミュニティ」 ④岡司直也（フォーラム）「農山村の新しいサポート体制－農山村に向かう若者とその可能性」
PD	遠藤和子（フォーラム：司会進行）、講演者4氏

第7回（2013年7月6日：東京大学農学部弥生講堂）

テーマ	中山間地域再生の課題－中山間地域フォーラムは何ができるのか－
記念講演	結城登美雄氏（民俗研究家）「中山間地域再生の課題」
報告	①野中和雄（フォーラム）「中山間地域フォーラムの新たな課題」 ②牧山正男（フォーラム）「フォーラムによる実践活動－南牧村支援の6年」
パネルディスカッション	村田泰夫（フォーラム：司会進行）、今井修（フォーラム）、結城登美雄氏、松島貞治氏（長野県安岡村長）、野老真理子氏（千葉県大里総合管理社長）

第8回（2014年7月13日：東京大学農学部弥生講堂）

テーマ	はじまった田園回帰－見えてきた農山村再生－
解題	小田切徳美（フォーラム）「『田園回帰』と日本社会」
報告	①藤山浩氏（島根県中山間地域研究センター）「中山間地域における田園回帰」 ②石橋良治氏（島根県南郷町長）「『田園回帰』はこうして定着した」 ③塩見直紀氏（半農半X研究所代表）「『田園回帰』を支える『半農半X』」
PD	小田切徳美（フォーラム：司会進行）、報告者3氏

第9回（2015年10月4日：東京大学農学部弥生講堂）

テーマ	どう創る、中山間地域の「しごと」－地方創生の実践－
解題	小田切徳美（フォーラム）「地方創生とは何か」
基調報告	藤山浩氏（島根県中山間地域研究センター）「地域にしごとを取り戻す」
特別報告	伊藤洋志氏（ナリワイ実践者）「イキナリ・ナリワイ・フルサトをつくる」
実践報告	①尾野寛明氏（島根県川本町）「島根×若者×ソーシャル志向」 ②高木千歩氏（新潟県十日町市）「地域おこし協力隊から地産地消のレストランへ」
PD	小田切徳美（司会進行）、甲斐良治（フォーラム）、松永柱子氏（大阪市立大学）

第10回（2016年7月23日：東京大学農学部弥生講堂）

テーマ	進化する地域運営組織－『地方創生』の次なる焦点－
記念講演	生源寺眞一会長（フォーラム）「農業・農村をめぐる基本的課題」
基調講演	小田切徳美（フォーラム）「地域運営組織の可能性」
実践報告	①佐々木賢一氏（山形県川西町）「地域リーダーの視点」 ②小林和彦氏（フォーラム）「地域サポート人の視点」 ③板持周治氏（島根県雲南市）「行政の視点」
PD	甲斐良治（司会進行）、有田昭一郎氏（島根県中山間地域研究センター）、実践報告3氏

第11回 (2017年7月8日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	農山村再生と“若者力”－農業の新たな位置づけ－
解題	関司直也（フォーラム）「農山村再生と教育力」
実践報告	①橋本凌氏（熊本県阿蘇市、収納7年目畜産農家） ②中川雅貴氏（富山県高岡市緑のふるさと協力隊→同市農事組合法人） ③小松圭子氏（高知県安芸市、地鶏土佐ジロー経営）
PD	関司直也（司会進行）、和泉真理氏（JC総研）、実践報告3氏

第12回 (2018年7月15日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	農山村の“教育力”－ひとと地域はどう変わるか－
解題	小田切徳美（フォーラム）「「農山村の教育力」を読み解く！」
実践報告	①辻 英之氏（NPOグリーンウッド自然体験教育センター代表） ②江藤理一郎氏（（一財）学びやの里事務局長） ③吉野奈保子氏（NPO共存の森ネットワーク事務局長）
トークセッション	関司直也・小林和彦（フォーラム）、実践報告3氏
パネルディスカッション	関司直也・小林和彦・金井久美子（フォーラム）、辻 英之氏、江藤理一郎氏、佐竹裕次郎氏（緑のふるさと協力隊OB）

第13回 (2019年6月23日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	これからの農村政策を考える－基本法20年を契機として－
基調報告	生源寺眞一会長（フォーラム）「食料・農業・農村基本法の理念と現状」（当時の政策担当者からの報告）今井敏氏（元農林水産省）
現場報告	①川口幹子氏（対馬グリーンツーリズム協会）「地域おこし協力隊の現場から」 ②矢野富夫氏（全高知県橋原町長）「自治体行政の現場から」
PD	関司直也（フォーラム:司会進行）、今井敏氏、川口幹子氏、矢野富夫氏

第14回 (2021年7月10日：東京大学農学部弥生講堂)

テーマ	新たな農村政策を問う－農村発イノベーションは広がるか－
解題	関司直也（フォーラム）「新たな農村政策を問う」
基調報告	山口靖氏（農水省農村政策部長）「新しい農村政策の在り方に関する検討会の経緯と中間とりまとめ」
現場報告	①安部巧氏（新潟県長岡市にいがたイナカレッジ事務局長） ②阿部典子氏（岡山市みんなの集落研究所）
パネルディスカッション	竹田麻里（フォーラム:司会進行）、安部巧氏、阿部典子氏 （コメント）澤米渉氏（鳥取県）、阿高あや氏（日本協同組合連携機構）、榊田みどり（農業ジャーナリスト）

第15回 (2022年7月23日：全国町村会館)

テーマ	新しい中山間地域を考える－地域からの提案－
報告と私のコメント	①多田朋孔氏（NPO地域おこし）「農村からの発言－何が変わりつつあるか」 ②小田桐俊宏氏（国土交通省総合政策局）「国土計画の視点－8つの論点」（私のコメント）小田切徳美（フォーラム） ③上山隆浩氏（岡山県西栗倉村）「西栗倉村のゼロカーボン政策」（私のコメント）繁藤さわ子氏（事業構想大学院大学） ④入江嘉則氏（広島県神石高原町長）「神石高原町のDX戦略」（私のコメント）武居丈二氏（全国町村会事務局長）
PD	竹田麻里（フォーラム:司会進行）、多田朋孔氏、上山隆浩氏、入江嘉則氏

第16回（2023年7月8日：東京大学農学部弥生講堂）

テーマ	ポストコロナ期の集落の未来ーローカルコモンズの役割は何かー
特別講演	生源寺眞一会長（フォーラム）「中山間地域の現代的価値を考える」
特別研究	田口太郎氏（徳島大学）「地域づくり～集落自治の枠組みを問い直す～」
現場報告	①田畑昇悟氏（NPOテダス：京都府丹後氏）「集落の教科書」づくり ②宮島公香氏（長崎県松川町）「遊休農地を活用した一坪農園等」 ③安藤優氏（高知県中山間地域対策課）「小さな集落活性化事業」
PD	西原是良（フォーラム：司会進行）、田口太郎氏、現場報告3氏

第17回（2024年7月6日：東京大学農学部弥生講堂）

テーマ	人口減少下の農村ビジョンを考えるー市町村消滅論を超えてー
解題	関司直也（フォーラム）「増田レポートから10年を振り返る」
基調講演	高橋博之氏（株）雨風太陽社長「令和の大生政奉還」
現場レポート	尾原浩子（フォーラム）「キャンペーン「この地でずっと」の報告」
現場報告	①横山真由美氏（山形県小国町総務企画課） ②澤畑亨氏（熊本県水俣市久木野ふるさとセンター愛林館）
PD	関司直也（司会進行）、高橋博之氏、尾原浩子、横山真由美氏、澤畑亨氏

第18回（2025年6月29日：全国町村会館）

テーマ	多様な関わりによる新しい農村づくりー実践から探る 都市農村共創社会ー
解題	小田切徳美（フォーラム）「多様な関わりによる新しい農村づくり」
報告と私の見方	①鈴木辰吉氏（しきしまの家運営委員会事務局長）「農村RMOの役割」（私の見方） 榊田みどり（フォーラム） ②上田昌子氏（飛騨市役所）「自治体の役割」（私の見方） 平井太郎（フォーラム） ③中川玄洋氏（NPObankup代表）「中間支援組織の役割」（私の見方） 筒井一伸（フォーラム）
コメント	①上入佐慶太氏（日本航空（株））「企業の地域対応の視点から」 ②高橋博之氏（株）雨風太陽社長「ふるさと住民登録制度提案者の視点から」 ③朝日健介氏（農水省農村活性化推進室長）「新しい農村政策の視点から」
PD	小田切徳美（司会進行）、鈴木辰吉氏、上田昌子氏、中川玄洋氏、朝日健介氏

第19回（2026年6月27日：全国町村会館）

テーマ	中山間地域のこれまで・これから
第1部報告	野中和雄（フォーラム）「中山間地域フォーラムのこれまで」
トークセッション	①岩手県西和賀町における中山間地域対策（泉川道浩氏（西和賀町役場）、高橋秀氏（やまに農産（株））、関司直也（フォーラム）） ②田園回帰雄これから（山崎笙吾氏（長野県泰阜村役場）、関司直也・西原是良（フォーラム））
第2部報告	嶋田暁文氏（九州大学）「人口減少時代の自治体経営」
事例報告	青野高陽氏（岡山県美咲町長）「「賢く縮む」から「賢く挑戦する」へ」（コメント） 阿部典子氏（NPOみんなの集落研究所）
PD	小田切徳美（司会進行）、青野高陽氏、阿部典子氏、嶋田暁文

4. 会報に掲載された論文（第1号～12号）

第1号（2013年12月）

テーマ	中山間地域再生のために
巻頭言	私たちの後続く世代に引き渡すために（佐藤洋平会長）
論文	①中山間地域再生のために（結城登美雄氏） ②中山間地域再生の課題（小田切徳美） ③群馬県南牧村「支援」7年目の中間報告（牧村正男） ④原発災害からの再生をめざす中山間地域（守友裕一）

第2号（2015年4月）

テーマ	はじめた田園回帰
巻頭言	新しい価値を共創するコミュニティ（佐藤洋平会長）
論文	①市町村消滅論と田園回帰（小田切徳美） ②定住を支える地元のつくり直し（藤山 浩氏） ③女性と子どもが輝く邑南町（石橋良治氏）

第3号（2017年4月）

テーマ	地域運営組織が再生の主役
巻頭言	横のつながり、縦のつながり（生源寺眞一会長）
論文	①地方創生と地域運営組織（小田切徳美） ②事例に学ぶ地域運営組織（甲斐良治） ③過疎集落の大半は50年後でも存続（柴田 寛） ④飯豊町・川西町・西和賀町との意見交換会（井原満明、今井 修）

第4号（2018年4月）

テーマ	農山村再生と「若者力」
巻頭言	中山間地域の新時代をめざして（野中和雄）
論文	①農山村再生と「若者力」（関司直也、小林和彦、竹田麻里、西原是良、尾原浩子） ②中山間フォーラム 研究会報告（関司直也、小林和彦） ③天栄村、西和賀町との意見交換会（今井 修、井原満明）

第5号（2019年4月）

テーマ	中山間地域等直接支払制度
巻頭言	「関係人口」の意味と意義（小田切徳美）
論文	①中山間地域等直接支払制度の創設の経緯と変遷（三浦 進） ②中山間地域等直接支払制度の課題と対応（松本雅夫氏） ③生命と人権と農業を守って60年（守友裕一） ④グローバル人材が育つー研究会報告（小林和彦）

第6号（2020年4月）

テーマ	これからの農村政策を考える
巻頭言	農業と農村の原風景を守る（村田泰夫）
論文	①食料・農業・農村基本計画の改定に関する緊急提言 ②これからの農村政策を考えるーシンポ・研究会報告（柴田 寛） ③地方自治体との交流・支援活動（野中和雄、井原満明） ④グリーンキャリアを積む生き方（小林和彦）

第7号 (2021年4月)

テーマ	after/withコロナと農山村
巻頭言	中山間地域の農業と社会を構想する (生源寺眞一会長)
論文	①ポストコロナ社会と農山村 (小田切徳美) ②after/withコロナと農山村 (小野文明, 尾原浩子, 甲斐良治, 関司直也, 竹田麻里, 西原是良) ③福島県鮫川村中心地域活性化政策アドバイザー業務 (井原満明)

第8号 (2022年4月)

テーマ	新たな農村政策をつくる
巻頭言	中山間地域が注目される5つの視点 (野中和雄)
論文	①新しい農村政策のポイント (小田切徳美) ②新たな農村政策を問う—シンポジウム報告 (関司直也, 竹田麻里) ③中山間地域等直接支払制度における「集落戦略」 (井原満明) ④「中山間地域ハンドブック」出版のお知らせ (村田泰夫)

第9号 (2023年4月)

テーマ	農業集落調査問題の本質
巻頭言	「仮面」をはずして久しい農村政策 (三浦 進)
論文	①新しい中山間地域を考える—シンポ報告 (小野文明) ②農業集落調査問題の本質 (小田切徳美) ③農業集落調査廃止問題の経緯と問題点 (橋口卓也, 竹田麻里) ④岩手県西和賀町との交流会と体験ツアー (井原満明)

第10号 (2024年4月)

テーマ	ポストコロナ期の集落の未来
巻頭言	祝 会報第10号 (柴田 寛)
論文	①岐路に立つのと大震災復興 (山下良平氏) ②中山間地域の現代的価値を考える (生源寺眞一会長) ③ポストコロナ期の集落の未来—シンポ報告 (関司直也, 西原是良) ④食料・農業・農村基本法の改正問題を考える (野中和雄) ⑤食料・農業・農村政策の行方と現場の動き—研究会報告 (小林和彦) ⑥人・農地プランから地域計画へ—西和賀町報告 (井原満明)

第11号 (2025年4月)

テーマ	農村政策と農村ビジョン
巻頭言	世代論と農業・農村へのまなざし (橋口卓也)
論文	①「生業とともにあるムラ」の強さ (藤井 満氏) ②農村政策の行方 (小田切徳美) ③中山間直払制度の集落機能強化加算の廃止に関する意見書の提出 (野中和雄, 榊田みどり) ④地域の暮らしと農業を守る仕組みづくり—西和賀町報告 (榊田みどり)

第12号 (2026年4月)

テーマ	2025年農林業センサスを読む
巻頭言	中山間の試行錯誤の価値 (平井太郎)
論文	①山間地の農業振興と「鳴子の米プロジェクト」の20年 (安部裕輝氏) ②農林業センサス速報データを読む (柴田 寛) ③農村政策の観点からの分析 (竹田麻里) ④地に足の付いた等身大のビジョンを (榊田みどり) ⑤センサスからは見えない新しい動きにも注目を (菅野正寿氏) ⑥「豊かな少数社会」を目指して (溝口 淳氏)

※氏名に「氏」がある者は、外部寄稿者。

中山間地域フォーラムの会報（1～12号）の表紙

（第1号：2013年12月）



（第2号：2015年4月）



（第3号：2017年4月）



（第4号：2018年4月）



（第5号：2019年4月）



（第6号：2020年4月）



（第7号：2021年4月）



（第8号：2022年4月）



（第9号：2023年4月）



（第10号：2024年4月）



（第11号：2025年4月）



（第12号：2026年4月）



5. 「中山間地域ハンドブック」の出版

当フォーラムでは、2006年の設立以来の様々な活動の総決算として、中山間地域に関する我が国初の白書といえる「中山間地域ハンドブック」（税込1,980円）を2022年3月に農山漁村文化協会から出版しました。

内容は、①中山間地域の歴史と課題、②データで見る中山間地域、③地域の取組事例と中山間地域の近未来、④中山間地域再生に向けた提言のほか、⑤「田園回帰」，「半農半X」，「関係人口」など36のテーマをコンパクトに解説しているため、中山間地域の入門書にふさわしいと好評を得て、版を重ねています。



6. 中山間地域フォーラムへの入会のお誘い

中山間地域フォーラムでは、全国各地で 中山間地域の振興・再生に取り組んでいる地域リーダー、NPO、地方大学、市町村、道府県などの皆様や、中山間地域での実務経験や専門知識を持つ産学民官の皆様の入会をお願いしています。

本フォーラムは、事務所や職員もなく、補助金も受けていない純粋なボランティア法人であり、会員の会費のみで活動していることを、是非ともご理解願います。

1 会員の種類ごとの特典と年会費

できれば、多くの皆様に第2号会員に入会して頂きたい、お願い申し上げます。

	概要	特典	年会費
第1号 会員	NPO法上の社員として議決権を持つ会員	シンポ、提言等の企画・立案に参加できます	1万円
第2号 会員	フォーラムの活動を支援し、ともに活動して頂ける方々	①毎年、会報を自宅まで郵送 ②活動状況も郵送でご報告 ③シンポジウムや研究会の開催をメールでお知らせ ④ホームページの2号会員専用頁を閲覧可能	①個人会員 1口 2000円以上 (学生1000円) ②団体会員 1口 1万円以上
第3号 会員	メール会員	シンポジウムや研究会の開催をメールでお知らせ	負担なし

2 入会方法

(1) フォーラムHPの入会申込フォームに必要事項を記入して下さい。

※留意事項：①2号会員か3号会員かを確認して下さい。

：②個人会員か団体会員かを確認して下さい。

：③学生かどうかを確認して下さい。

：④年会費の申込口数を確認して下さい。

(2) 年会費は、ゆうちょ銀行の口座あてに振り込んで下さい。

① ゆうちょ銀行振替口座番号：00130-5-790092

② 加入者名：中山間地域フォーラム

③ スマホや他行からゆうちょ銀行に振り込む場合は、以下あてをお願いします。

ゆうちょ銀行支店番号：019店（ゼロイチキュー） 口座種類：当座

口座番号：0790092 口座名義：トクヒ）チュウサンカンチイキフォーラム

7. 中山間地域フォーラムの役員体制

2026年6月13日現在

会 長	生源寺眞一（日本農業研究所）
副会長	小田切徳美（明治大学）、榊田みどり（農業ジャーナリスト）、柴田 寛（元全国町村会）、三浦 進（全国農地保有合理化協会）
理 事	阿部道彦（農山漁村文化協会）、井原満明（地域計画研究所）、太田信介（元地域環境資源センター）、小田切徳美、小野文明（全国町村会）、榊田みどり、柴田 寛、生源寺眞一、関司直也（法政大学）、高橋雅一（岩手県西和賀町議）、田中幹夫（富山県南砺市長）、筒井一伸（鳥取大学）、平井太郎（弘前大学）、橋口卓也（明治大学）、藤山 浩（持続可能な地域社会総合研究所）、三浦 進
監 事	牛島正美（元全国町村会）、竹田麻里（東洋大学）
特別顧問	佐藤洋平（東京大学名誉教授、初代会長（2006～15年）） 野中和雄（元農林水産省構造改善局長、初代副会長（2006～25年））
顧 問	室本隆司（全国水土里ネット専務理事）、金 秀行（全国中山間地域振興対策協議会会長、北海道蘭越町長）、四方源太郎（全国水源の里連絡協議会会長、京都府綾部市長）、白谷栄作（農業農村工学会専務理事）
運営委員	委員長：小野文明 阿部道彦、石井勇人（宮城大学）、井原満明、小野文明、尾原浩子（日本農業新聞）、小林和彦（安田協同店）、齋藤貴宏（全国町村会）、関司直也、高橋大介（鹿緑会）、筒井一伸、中田哲也（元農林水産省）、西原是良（岐阜大学）、橋口卓也、服部俊宏（明治大学）、平井太郎
事務局長	三浦 進

中山間地域フォーラム



中山間地域フォーラム



(連絡先)

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-11-3 金谷ビル201 地球緑化センター気付

メールアドレス : chusankanforum@gmail.com

ホームページ : <http://www.chusankan-f.org>